

## 「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する公聴会

平成 25 年 2 月 24 日（日）13:20～13:35

さいたま新都心合同庁舎検査棟 7F

発言者：公述人 4

私は東京都江戸川区北小岩から来ました■■■■と申します。意見につきましては2点ありますけれども、まず最初に北小岩について簡単に紹介いたします。私の住む江戸川区北小岩というのは明治以降、耕地整備が実施されて、今、碁盤の目のような整然とした住宅地になっております。タクシーなんかに乗って「北小岩四丁目だよ」というと、「お客さん、あそこは江戸川区の田園調布だね」と言われるくらい静かで、緑豊かな土地になっております。そこに突然、平成18年9月5日、江戸川区土木部によるスーパー堤防、カッコして高規格堤防ですが、スーパー堤防と区画整理の説明会が実施されました。会場になったのは小学校の講堂あるいは体育館、こういうところでしたが、どの会場でも怒号と騒音が渦巻いて、係員の説明すら聞き取れなかったほどです。その後、区議会の建設委員会では、北小岩にスーパー堤防をするという理由を地球温暖化で東京湾の水位が上がるよ、それから北小岩には液状化現象が見られるという理屈を言っておりました。そして、さらには、今実施すれば、住民税を使わなくても済むと理由付けに一貫性が全くありません。事実、東日本大震災の際も、北小岩では液状化現象は見られませんでした。近所のお寺さんが本堂を建て替えるんで鉄筋コンクリートを直に打ち込んだら、もうそれ以上入らないと、なんでだと聞いたら、北総台地からの岩が、岩盤が江戸川の下を通過して北小岩まで伸びているんです、とそういう説明です。というふうに聞きました。それくらい地盤もしっかりしたところでございます。北小岩4丁目というのは私鉄の駅にも近くて、堤防工事とともに区画整理を実施して、地価、土地の値段を高くして売りたいという、まあ腹と申すまいですか、計画がまるでもう住民全体に知れ渡っちゃっているんです。したがって、ほとんどの住民は区の要求に応じることはないと思っております。江戸川右岸は、一昨年、緩傾斜堤防の工事が行われました。関東大震災でも崩れなかった堤防が、更に強化されたんです。また、現在の住宅地と異なる土の質ですね、土質、これで盛土された場合、地盤沈下や亀裂が懸念されます。従って、明確な事業理由と住民への納得ができる説明がないこの事業には反対している。それから、2番目。これは皆さん方のお手元にもあると思いますけど、第2点です。現在、建設技術とか技法というのは格段に進歩が進み、TRD工法、等圧式ソイルセメント地中連続壁工法なる新しい技術があります。これは、土にセメントを混ぜて強化し、地中に連続的な壁を構築する工法です。例えば、幅は50cmから80cm、深さは20mから30m、費用は前記で1m当たり50万円程度でございます。幅も深さも自由に変えることが可能で、液状化対策、地盤の強化、浸透対策、津波対策にも有効となります。利根川の治水の基準点である八斗島から銚子まで両岸約400km、江戸川は関宿から東京湾口まで両岸約100km、合計500kmが、ざっと2,500億円で完成することが可能です。北小岩の2.2kmに1,700億円を要する事業に比べ、はるかに安価なものです。この工法の特徴については、区間整理の必要がない、住宅を取り壊す必要がない、新たな盛土の必要がない、住民に長期間、移転を強いる必要がない、これらの点からぜひ、この工法を採用されんことを希望いたします。私の意見は以上です。

以上